

SMI(サンデン経営研究所) メールマガジン 第8号

【本号のテーマ】

- ・連載・自伝エッセイ<新しい旅>
[加藤幸男著](第6回)完
- ・編集者のつぶやき
「品質管理ツールの使い道」って何?(第5回)
※編集後記<編集者より>



サンデン経営研究所・洋館

2023年1月29日発行

連載・自伝エッセイ[加藤幸男著]第6回(完)

■自伝エッセイ<新しい旅>を連載で掲載します

この度、SMI加藤常務理事より、A4版8枚からなる自伝エッセイが寄稿されました。この場をお借りして順次紹介してまいります。ご自身の教育・芸術に対する想いや、米国留学時代の半生があらまに記述されております。

皆さまからご好評いただいたこの連載も**今回が最終回**となります。SMI加藤常務理事のご寄稿に、この場をお借りして、**多大なる感謝**を申し上げます。

●美術品のオークション

私は、ニューヨークに渡る前からアンリ・マティスのある言葉にくぎづけにされていました。それは、1930年2月にニューヨーク滞在中のアンリ・マティスの「**出来る事ならニューヨークに住みたいものだ、そこは、海のように広大で威厳があり、全く新しい世界である人間の大きなエネルギーの放出がある**」という言葉でした。後にメトロポリタン美術館通いが激しくなってから、ニューヨークは、**マティス作品**に触れるには絶好の立地であることを知るに至りました。私は、メトロポリタン美術館で600ドルほどのドガの「踊り子」のブロンズ像(レプリカ)を購入した際に、メトロポリタン美術館の通常会員になり、館からのニュース・レターを送ってもらっていましたが、2008年時点ですらマティス作品の購入がありました。

また、**オークション**は、パリからニューヨークに移って双方で行うことも多いことを知りました。2009年2月23日～25日にパリのグラン・パレで「**イヴ・サンローラン&ピエール・ベルジェ・コレクション展**」が開催されたというニュースが、ニューヨークにいる私の元にも飛び込んできました。グランパレでのプレビューでは、イヴ・サンローランのアパルトマンを再現、3日間で3万人の観客が訪れたというのがニュースの内容でした。



(著者による模写)

オークションは、クリスティーズ史上最大規模の会場で行われ、各セールに1500人を超える人々が集まって盛大に行われたそうです。絵画、装飾美術、銀器、全てのカテゴリーでオークション・レコードを出し、落札総額が3億4240万ユーロ(約415億円 当時)と個人コレクションとしては史上最高記録をマークしました。フランスのオークションに詳しい方によると、現在のフランスのオークションも、世界的傾向と同様、オークション落札者は、アラブ人富裕層、アジア圏内ですと中国人の割合が増え、フランス人は、上部の一握りの方が元気と言う状況だそうです。

これまでは、オークショニアが口頭で商品を説明し、ロットと商品名、エスティメート(予想落札価格)が記入されている紙を貰うだけのシステムだったが、最近では、高級路線になったためかカタログも10~15ユーロで1階のエントランスで売られている。特に電子ボードの導入で、取引がより明確になった影響で、商品の高額化が著しいようです、いずれにしろフランス語必須は昔の儘、オークション会場は未だに業界人(プロ)が大多数で、我々は、勿論、「およびじゃない」状態です。

しかし、アンリ・マティスの「黄水仙、青とバラ色の敷物」1911年 油彩 キャンバス31.9×25.8cm 落札金額約43億5100万円 といった珠玉の名品が登場する等するので、私としては、目が離せません。作品を購入することは、出来ませんが、作品から啓発されインスパイヤーされることが多いことを思うと推しの作家の作品は、その売買情報すら貴重なものなのです。また、フランスでは、オークショニアは、国家資格を有し、オークションにかけられた作品に対して10年間の責任期間があるそうで、芸術品に対する厳密・厳格な姿勢が感じられるところです。



こういった海外での多くの美術作品との出会いが、私を啓発し、作家研究にのめり込むことになってしまいました。副産物は、自宅を埋め尽くす多くの模写作品です。

(ご自宅の絵画)

(おわりに)

この小記事で、つたない筆ながら、わが師、平岡篤頼先生についても少しく書きましたが、今、私の日々の生活のモチベーションは、早稲田の先生方の影響で形成されていることが解って参りました。

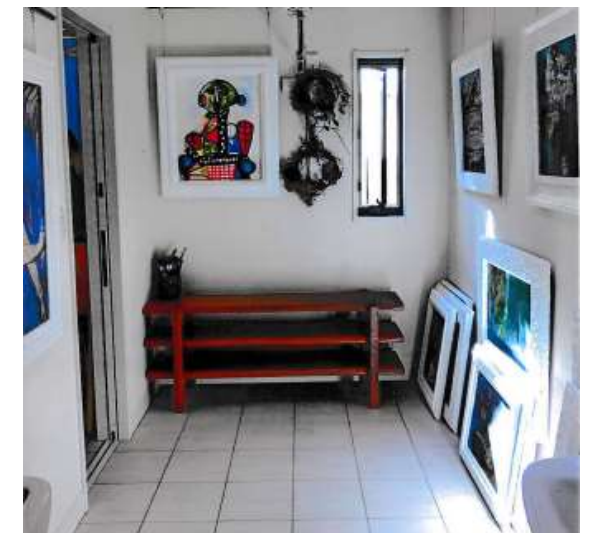
私が早稲田で最も影響をいただいた坂崎乙郎先生は美術評論、安藤更生先生は仏教美術史、今井兼次先生は建築と専門も学部も違いますが、共通するのは、それぞれの先生方は、その存在自体に豊穡極まりない価値が感じられ、学ぶ者を差別せず、同じ視線で接して下さり、大人とは何かを見せつけてくださったということです。

分かりやすく言うならば、それぞれの先生方が、是非このような人になりたい、少しでも近づきたいと思わせる先生方だった事です。青春の志を若き胸に湧き立たせつつ、私は、そういった先生方、すなわち学生と同じ視線に立ち、学生の可能性を信じてくださる先生方に憧れに憧れたものです。

さて、わが母校早稲田大学のキャンパスには、大隈庭園奥にある学生食堂に至る遊歩道の片隅に「戦没学生の碑」がひっそりと建てられております。碑の裏面には、第二次世界大戦で学園の教職員・学生4500名余が亡くなったことが記されております。また、併せて当時の一女子学生の読んだ歌が刻まれております。ここにご紹介させていただきます。

『征く人の征き果てて 音絶えし校庭に
落ち葉舞うなり 黄に輝きて』

平和が無ければ学問も芸術も成り立ち得ません。戦争というものの終焉を切に切に祈念いたしております。(完)



(ご自宅の絵画の数々)

編集者のつぶやき

■問題解決[品質管理ツールの使い道]って何？(第5回)

●効果の具合を検証する

(データをみる、有意差検定、正規分布外れ)

さて、皆さま、今回は『編集者のつぶやき』「問題解決[品質管理ツールの使い道]って何？」の連載?第5回です。前回の第4回では、対策や予防処置の案を考えて、ちゃん出来るのか検討する(対策内容、検査、プロセス、実行可能性検証、量産試作)でしたね。息切れしないように、かつ、本メールマガジンの趣旨としての「ありのままで肩の凝らない読み物」として、真に役に立つ情報を発信していくという方針で、あまり頑張らない程度にありのままに発信して参ります。

・まず、データって何？

さて、「データ」と言うとき、皆さんは何を思い浮かべますか？ 最近は、ネットなどの媒体がやたら騒ぎ立てるので画像やIoTデータも含めた「ビッグデータ」のことを「データ」と思っているひとも多いようですが、ここではそれはあえて対象としません。

つまり、身長とか体重とか、感染者数とか、人口とか、何らかの意味をもった、数字のひとかたまり、と思ってください。

例えば、小学校の理科の時間に、気温や温度を測って記録したり、ものの大きさや重さを測って記録したり、そういった、世の中の物や現象を数値化して、扱いやすく表記したものを「データ」としましょう。

最近「ビッグデータ」のことがデータだと思っているひとも多い



・データをみる、ってどういうこと？

コロナの時代になってから、新規感染者数の**グラフ**を、テレビやネット上などで見ることが多くなりましたね。この**グラフ**が、**データをみる**ことの基本中の基本ですね。一番皆さんがなじみの深いのが、**棒グラフ**と**折れ線グラフ**でしょうね！

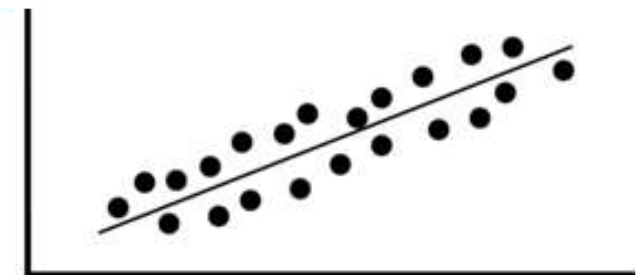
棒グラフは、データの数(多さ)を小さい順などに並べたものと、時系列で古い順に並べたものとの、大きく分けて2種類ありますね。



折れ線グラフは、やはり時系列で古い順に並べたもの(気温グラフのようなもの)と、比率やパーセントを現したものと、これも大きく分けて2種類ありますね。



散布図というグラフは、ある一定の法則(例えば比例関係)の2つの項目を、X軸とY軸で(点などでデータを)プロットして、その関係性を示したものが、一番多いですかね。

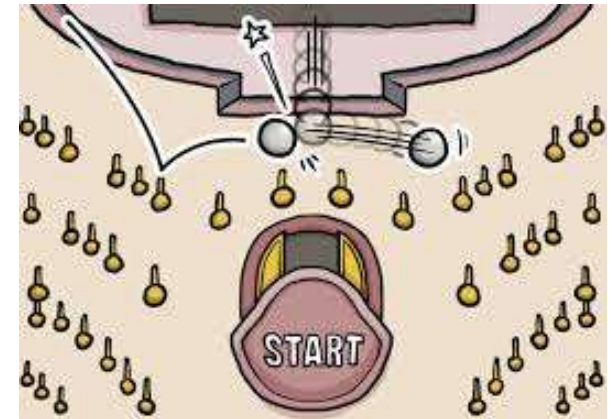


実は、もっと色々なグラフがあるのですが、ここの説明では、基本的に上の**3種類**しか使いません。

・正規分布ってな～に？

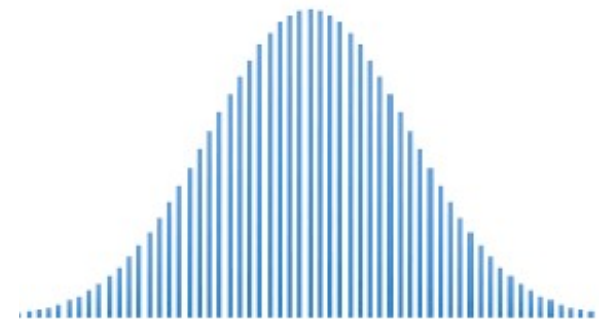
「さーて、では、「有意差検定」というもののイメージを掴みましょう。おっと、その前に、「正規分布」という考え方から理解しなければなりません。(統計学者さんという人たち？はなぜかカンタンなことを、ムズカシイ言葉で表現するのが好きらしく、こまったものです)←ひとりごとです

皆さんはパチンコってやったことがありますか？銀色の球を上の方に打って、落ちてくる玉がスポットに入ると当たりになるやつです。



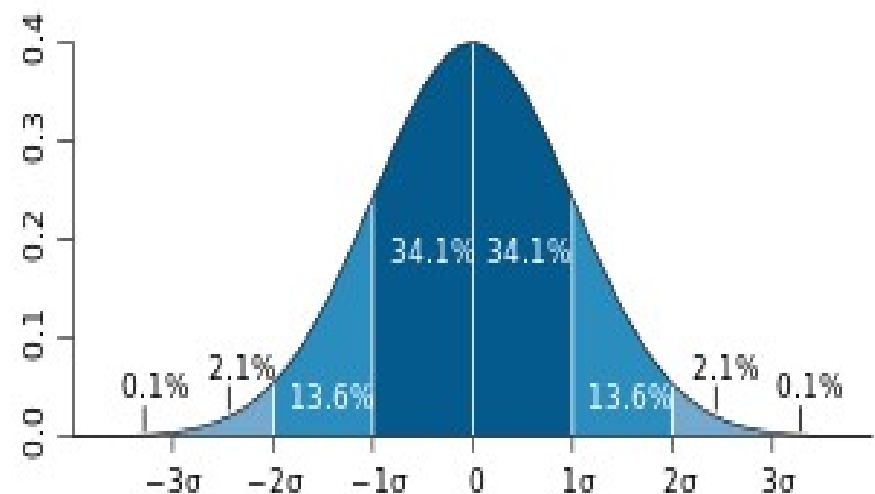
多少差はあっても、大体こんな感じの形

この時のパチンコ玉の動きって、上から下に落ちるとき、釘にあたって左右に振られますが、大体はある確率で中心付近に集まりますね。これをグラフに書くと、こんな感じですよ。この“釣り鐘型”の形自体を「正規分布」と言うんですね。



この「正規分布」をもっと詳しく調べたひとがいて、そのひとは、中心付近の $\pm 1\sigma$ (1シグマ)という範囲に全体の約68%が、 $\pm 2\sigma$ (2シグマ)という範囲に全体の約95%が、 $\pm 3\sigma$ (3シグマ)という範囲に全体の約99.7%が存在すると言われてています。

これって、そうです、試験の偏差値という考え方の元ですね。世の中を変革するのは、往々にして、裾野の上と下の0.3%の人たちですね(個人の意見です)。



・有意差検定ってな～に？

さて、ここでやっと、本題にもどって「有意差検定」のお話です。

実は、先ほどまでの「正規分布」という考え方をを使うと、対策前後のAという状態とBという状態の2つが、本当に効果的に**差がある**のかどうか、統計的に判定ができます。

最近の例では、**コロナ治療薬の治験**の検証例が、これに該当すると思われます。

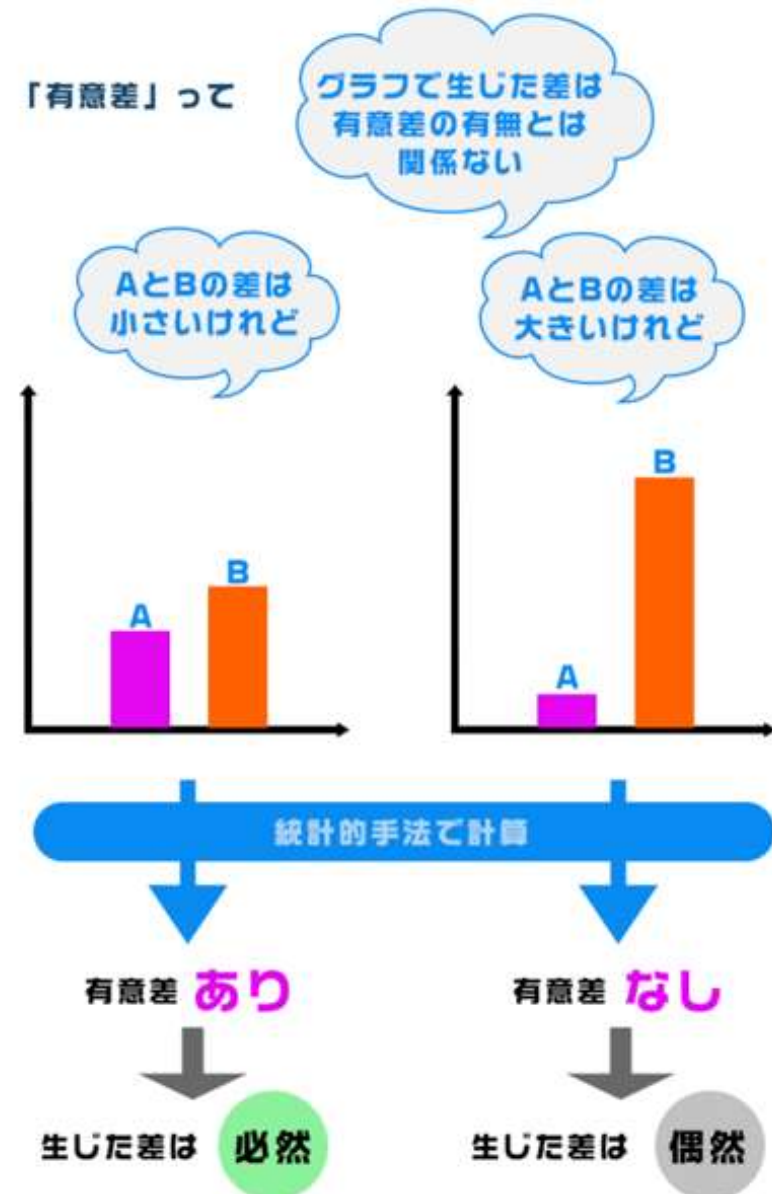
モノづくりやある事象で、何か対策を打った時にホントに**効果**があるかどうかの**判定**は、この手法をつかうと、カンタンに出ます。

「**危険率(有意水準)5%**で、**有意差がある(ない)**」とかデジタルに判定が出ますから、何も悩む必要はありません。

これを「**平均値の差の検定**」という呼び方をする場合もあります。

細かい計算のやり方は、**ネット上**やYouTubeなど、いくらでも説明が出ていますので、それを参考にしたり、最近では入門者向けの**書籍**もたくさんありますし、表計算のExcel上でもできますね。

薬事承認するお役人さんは、こういうこと、判ってますかね？



・正規分布外れとは？

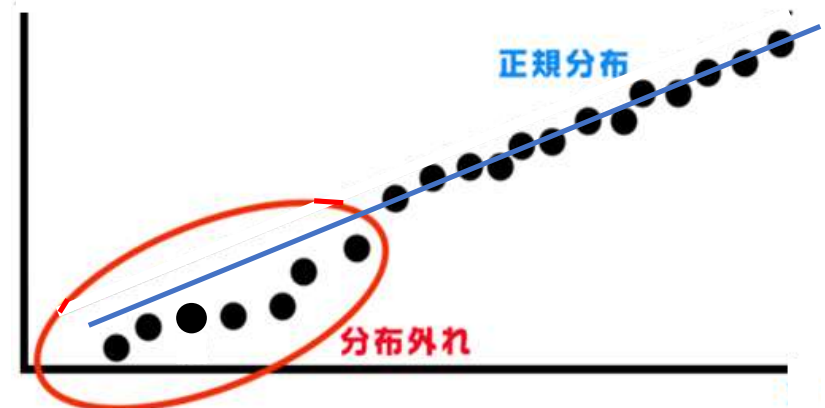
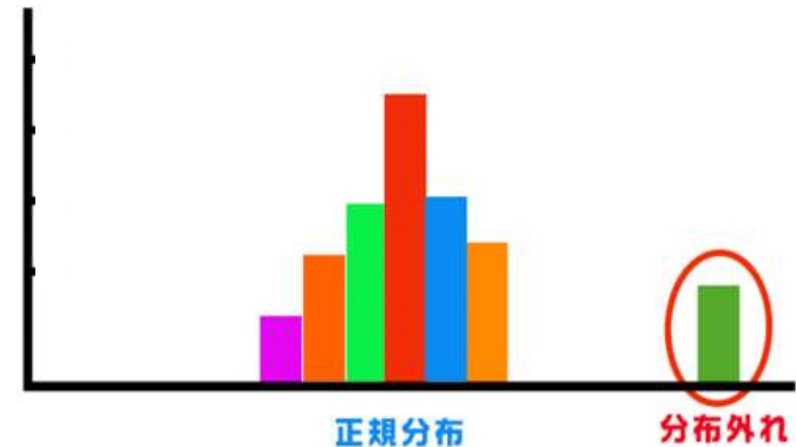
さて、最後に、「正規分布外れ」のお話です。

つまり、先ほどまでの「正規分布」という範囲に収まらずに、メッチャクッチャ外れた、とんでもないヤツを、どうやって見つけるか？というお話です。学校の正門で、登校する生徒たちの髪型や服装・鞆などをチェックする、生徒指導担当の先生みたいなものです。

モノづくりや品質管理では、そーい飛び抜けて「変なヤツ」を見つかるだけでも、ずいぶんと安定した感じになります。

こーいう、「変なヤツ」を見つかるのに、もし「プロセス管理」という手法が効かないなら、もうこれは「選別(スクリーニング)」という最後の手段を使うしかないのですね。

なお、こーいう「変なヤツ」は、「正規確率紙」や「ワイブル確率紙」という手法を使っても、カンタンに発見できますので、是非ご活用ください。(表計算Excel上でも簡単にできます)



(あくまでイメージ図です)

※編集後記〈編集者より〉

●感動があるからこそ価値が認められる

さて、今回がSMI加藤常務理事よりご寄稿の、エッセイ〈新しい旅〉の最終回でした。皆さま、いかがでしたか？

絵画や芸術のセンスがない編集者からしても、世の中は「モノ」の充実だけでは、決して喜びや楽しさ・生きがいを生むものでなく、「コト」があって感動するからこそ、その価値が認められるのだと思いました。

事業やシゴトに関しても、利益や収益・〇〇品質賞受賞・〇〇国際規格合格・市場シェアなどの「モノ」を目標とした事業やシゴトは、それを完遂した(やり遂げた)時点で、終わりに近づく？ことが多いですね？ 実は、この時点での「モノ」というのは、「コト」の必要条件を揃えただけなんですね。

それに反して、「コト」を目標とした事業やシゴトは、永遠に発展し継続するのでしょうか。たとえば、会社の経営方針に『ステークホルダー(利害関係者)の幸せ』や『社会への貢献』『顧客の感動』『スマート商品』を謳った企業がその例です。

こんなことを言いたいがために、このメールマガジンもやっと第8号までできました。皆さま、これからも引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。



「まるメガネの森より」